

# 電子ジャーナル時代における蔵書構成評価の試み

## － 医学系 Open Access Journal の計量的分析 －

城山泰彦  
順天堂大学図書館

### I. 背景と目的

学術雑誌の蔵書構成を評価する試みは、学術雑誌が冊子体で刊行されていた時代には、購読価格、引用分析、利用統計、所蔵館数などを指標として、様々な手法で行われていた。電子ジャーナルが主流となった現在、引用関係や利用統計の分析が容易になった一方、冊子体時代と同様の手法で個々の学術雑誌を評価・分析することが難しくなった印象がある。その原因として文献データベースやパッケージ契約の出現、契約条件により購読価格が異なることなどが挙げられる。また Open Access (以下 OA) により、購読モデルが変化した影響も考えられる。本調査では電子ジャーナル時代の蔵書構成を評価する試みの第一歩として、OA で公開されている医学系の学術雑誌がどの程度あるか計量的な分析を行った。

### II. 調査項目と調査方法

Journal Citation Reports, Science Citation Index Expanded の 2012 年版に収録された 176 の学問分野のうち、医学に関連する 56 分野 (基礎医学・臨床医学・総合科学) を対象として OA の割合を分析した。リンクリゾルバ (SerialsSolutions, 360Link) により本学での閲覧可能タイトル (2015 年 1 月 29 日時点で 46,676 タイトル) データを採取し、OA と思われるタイトルを選別した。各タイトルには閲覧可能範囲により、「即時 OA」、「公開遅れ」、「OA 期間あり」、「OA なし」の 4 つの分類を付与した。

### III. 結果と考察

医学分野における OA タイトルの割合は、即時 OA : 18.6%, 公開遅れ : 11.6%, OA 期間あり : 2.6%, OA なし : 67.1% という結果となった。公開範囲の違いはあるが、およそ 1/3 が OA であった。学問分野による差は大きく、少ない分野は、法医学 : 6.2%, 看護学 : 8.5%, 薬物乱用 : 12.5%, 聴覚・音声言語病理学 : 13.6%, 神経画像 : 14.3% の順であった。一方で OA が過半数の分野は 5 つあり、熱帯医学 : 72.7%, プライマリヘルスケア : 66.7%, 医学一般・内科学 : 61.9%, 感染症学と寄生虫学 : 共に 51.4% であり、国際保健に関連する分野が高い数値を示していた。同様に、論文数などを指標とした数値も分析した。今回の結果をふまえて、今後は購読誌を対象とした分析を進めていきたい。

